

「地域の知の拠点再生プログラム」による地域再生計画
ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクト（仮称）の提案

平成 18 年 3 月 29 日

「世界の知の拠点構想」を考える広島地域大学長有志懇談会

代表世話人	広島大学長	牟田泰三
	広島経済大学長	石田恒夫
	広島工業大学長	茂里一紘
	広島国際大学長	上里一郎
	広島修道大学長	兒玉正憲
	広島女学院大学長	今田寛

1. ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクトの提案の背景

広島地域の大学長有志懇談会は、平成 17 年 2 月に「世界の知の拠点構想」を策定し、広島大学本部跡地を「世界の知の拠点」として活用すべきであると提案しました。その背景となる考え方は次のようなものでした。

- 広島はかつて「知の拠点」として機能していた
 - ・ 広島には、広島高等師範学校が置かれ、学校教育を牽引する優秀な人材を数多く輩出してきた。
 - ・ 広島地域には、広島大学をはじめ、公立、私立大学・短期大学が数多く立地し、高等教育の場としての環境が整っている。
 - ・ 「教育県広島」と言われ、大学進学率はトップクラスであった。
- 時代の変化とともに、広島の「知の拠点」としての機能が低下してきた
 - ・ その後、広島地域の高等教育・研究開発機能の強化が進んだが、多くの大学等が広島市の外周部に分散的に立地したため、都心部に学生が集まる場や機会が少なく、他大学の学生や社会人との交流や芸術文化活動等が活発に行われているとは言えない状況となっている。
 - ・ 同様に、各大学で広島地域の特性を活かした独自の研究等（平和研究等を含む）が展開されているが、核となる拠点到に乏しいため、地域の特性や独自のテーマに関する学際的・総合的な研究等の活動が展開しにくい状況となっている。
 - ・ これらの条件が、広島地域（広島市）の都市的な魅力や拠点性の低下を招く要因の一つとなっていることは否めない。
- 広島の活性化を図っていくためには優秀な人材の育成と地域への定着が不可欠である
 - ・ 不況の長いトンネルを抜け、製造業を中心に経済の回復基調が見られるようになった今、地域の経済を活性化し、中四国地域の拠点都市としての強化、都市の魅力の回復を図っていくためには、その中核を担う優秀な人材を輩出し、地域に定着させていくことが喫緊の課題である。そのためには、地域の人材育成力を高めるとともに、若者が定着していく文化的環境、都市的な魅力を醸成していく必要がある。

「世界の知の拠点構想」の提案を踏まえて、六大学長有志懇談会では、構想の実現に向けて検討を進めてきました。その結果、内閣府が推進する地域再生計画の「地域の知の拠点再生プログラム」を活用した「知の拠点」づくりが効果的であると判断し、関係機関の助言や民間事業者等の協力を得ながら事業化の検討を進めるとともに、文部科学省の施策である「地域再生人材創出拠点」の形成に向けて具体的な準備を進めています。また、構想具体化の体制を整えるため、広島地域の大学等に呼びかけて大学コンソーシアムの設立準備を進めています。

また、財政的な制約条件が厳しい中でプロジェクトを実現するため、民間の参画する官民共同プロジェクトとして実施することが望ましいと判断し、「知の拠点構想」に賛同する民間事業者の協力を得て、民間資金の活用による実現性の高い事業化のスキームの検討を進めてきました。

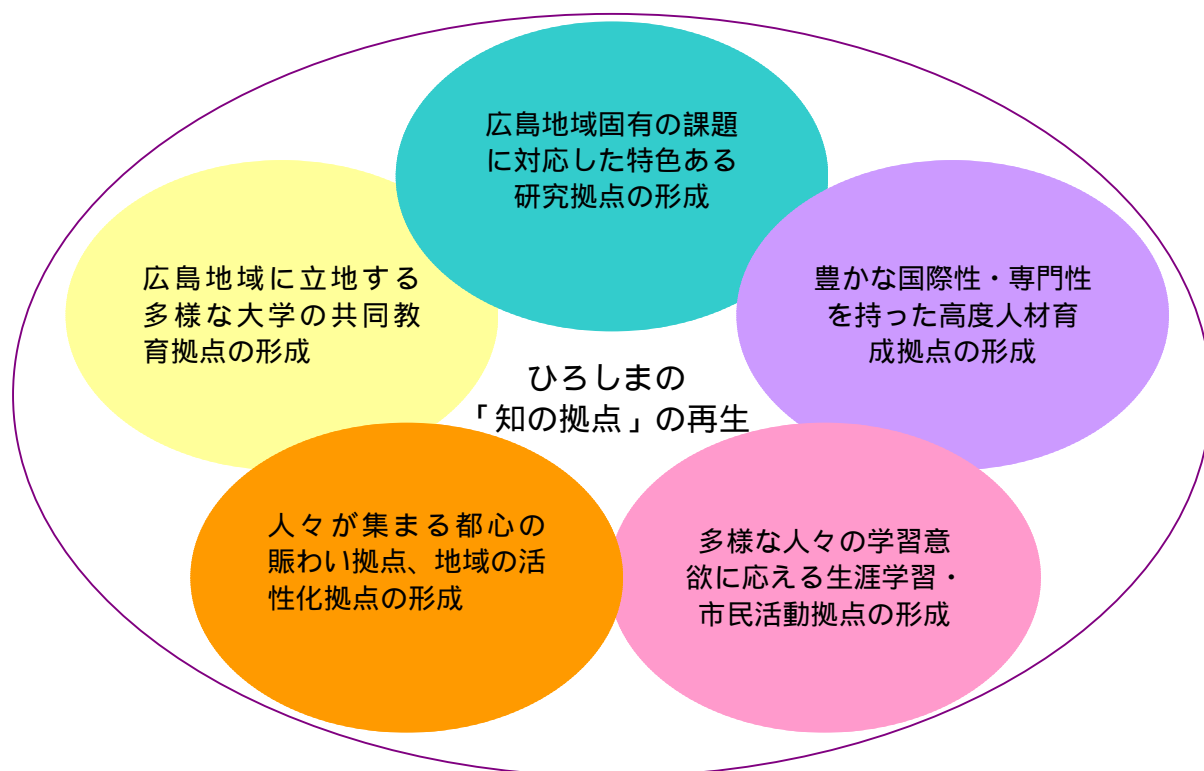
本案は、その検討結果を、『ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクト』として提案するものです。

2 . 提案内容

2・1 計画の目標

『ひろしまの「知の拠点」の再生』を実現するため、次のような目標を掲げました。

- 広島地域固有の課題に対応した高度な研究や課題解決のための特色ある研究拠点の形成
- 豊かな国際性・専門性を持った人材を育成する高度人材育成拠点の形成
- 広島地域の大学生の多様な教育と交流の機会の提供と、学生の集中による都市の活性化を図る共同教育拠点の形成
- 広島地域の人々の多様な学習や社会的活動の欲求に応える生涯学習・市民活動拠点の形成
- 恵まれた立地条件を活かし、多くの人々が訪れたい都心の賑わい拠点、地域の活性化拠点の形成



2・2 目標を達成するために行う事業の計画

上記の目標を達成するため、広島大学本部跡地において行う事業について検討しました。

当地区の事業化にあたっては、これまでの経緯から以下のような条件を基本としました。

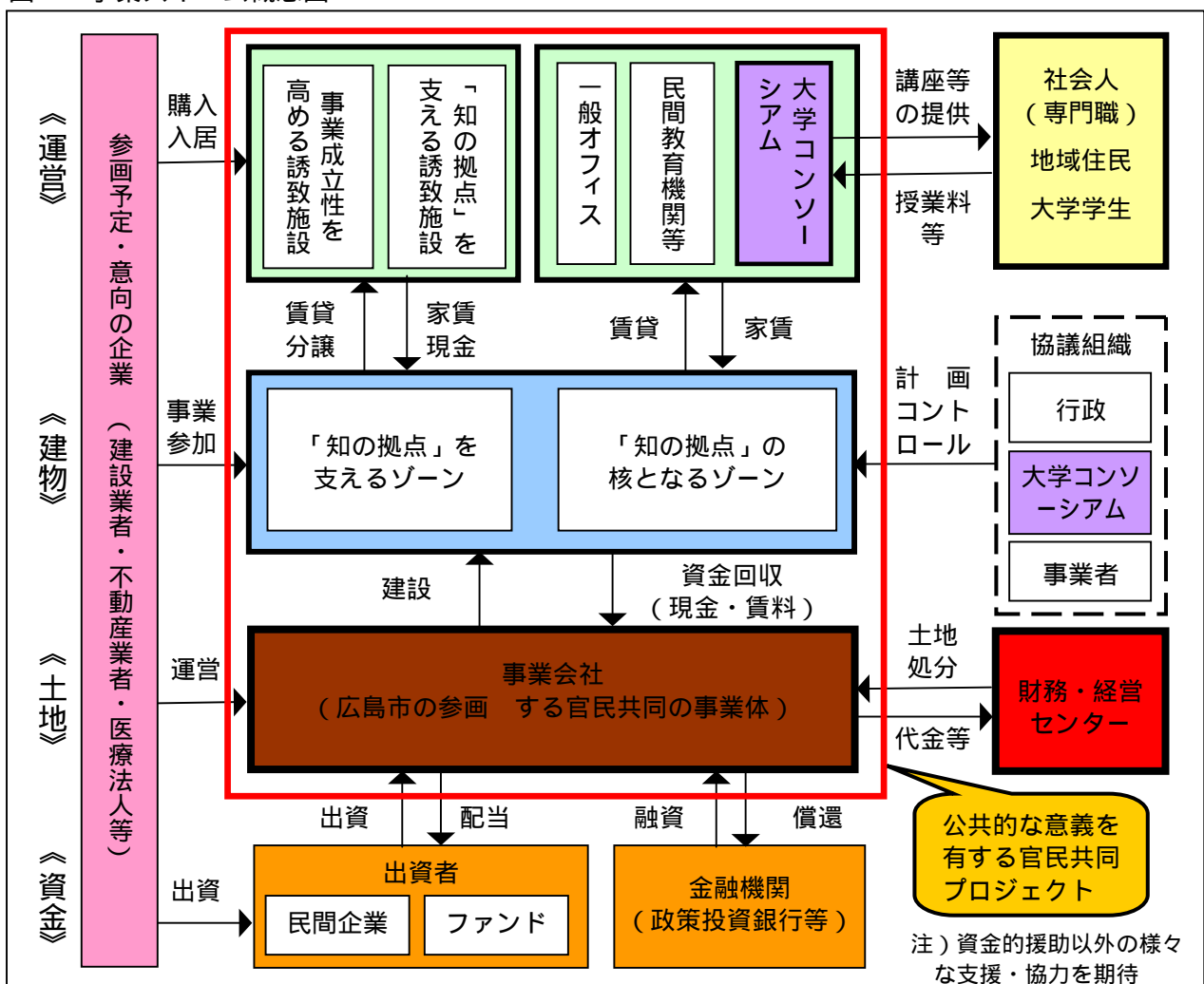
- 公的主体（広島県または広島市）が広島大学本部跡地の取得、もしくは自らが主体となった施設の整備を行うことを前提としない事業の組み立てを行う
- 大学コンソーシアムは、対象地区における人材育成機能を担うため必要な事業（カリキュラムの編成、知的資源の提供等）について協力して最大限の取り組みを行う

このため、大学コンソーシアムは、広島大学本部跡地を活用した「ひろしまの知の拠点の再生」の必要性を理解し、ともに構想の具体化を検討する民間事業者を募り、一体となって事業の可能性を検討しています。現時点で想定している事業の基本的なスキームは以下のとおりです。

- 広島大学本部跡地全体をひろしまの「知の拠点」にふさわしい場として一体的に整備することを基本とし、行政・大学コンソーシアム・民間事業者（企業グループ）が協力してプロジェクト計画を作成する。（この枠組みとして内閣府の推進する地域再生計画（地域の知の拠点再生プログラム）を活用する）
- 民間事業者（企業グループ）は、広島大学本部跡地の土地を取得するとともに、全体計画に基づいて「知の拠点」の核となる機能（人材育成施設等）の整備、及びこれらと一体となった「知の拠点」にふさわしい機能や事業の成立のために必要な機能を含む施設の整備・運営等において、中心となってプロジェクトを推進する。
- 大学コンソーシアムは、人材育成施設を活用（賃借等）して「知の拠点」にふさわしい高度な人材育成プログラムの開発・実施を行うとともに、生涯学習・地域活動等を行う多様な人材育成等の分野で地域貢献を行う。（この具体化のため、文部科学省の施策である「地域再生人材創出拠点の形成」に取り組む）
- 地方公共団体は、以上の事業スキームを実現するため、公的な計画としての位置付けを行うとともに、用地の円滑な取得や事業の実施について支援・協力を行う（注）。

注）一体的な計画に基づく建築物の規制・周辺環境への配慮等を前提に、敷地の処分や建築物の整備に関する制度的な支援（規制緩和等）、事業成立性を高める各種支援等を期待します。

図 事業スキーム概念図



上記の基本的なスキームに基づいて以下の事業を想定しています。

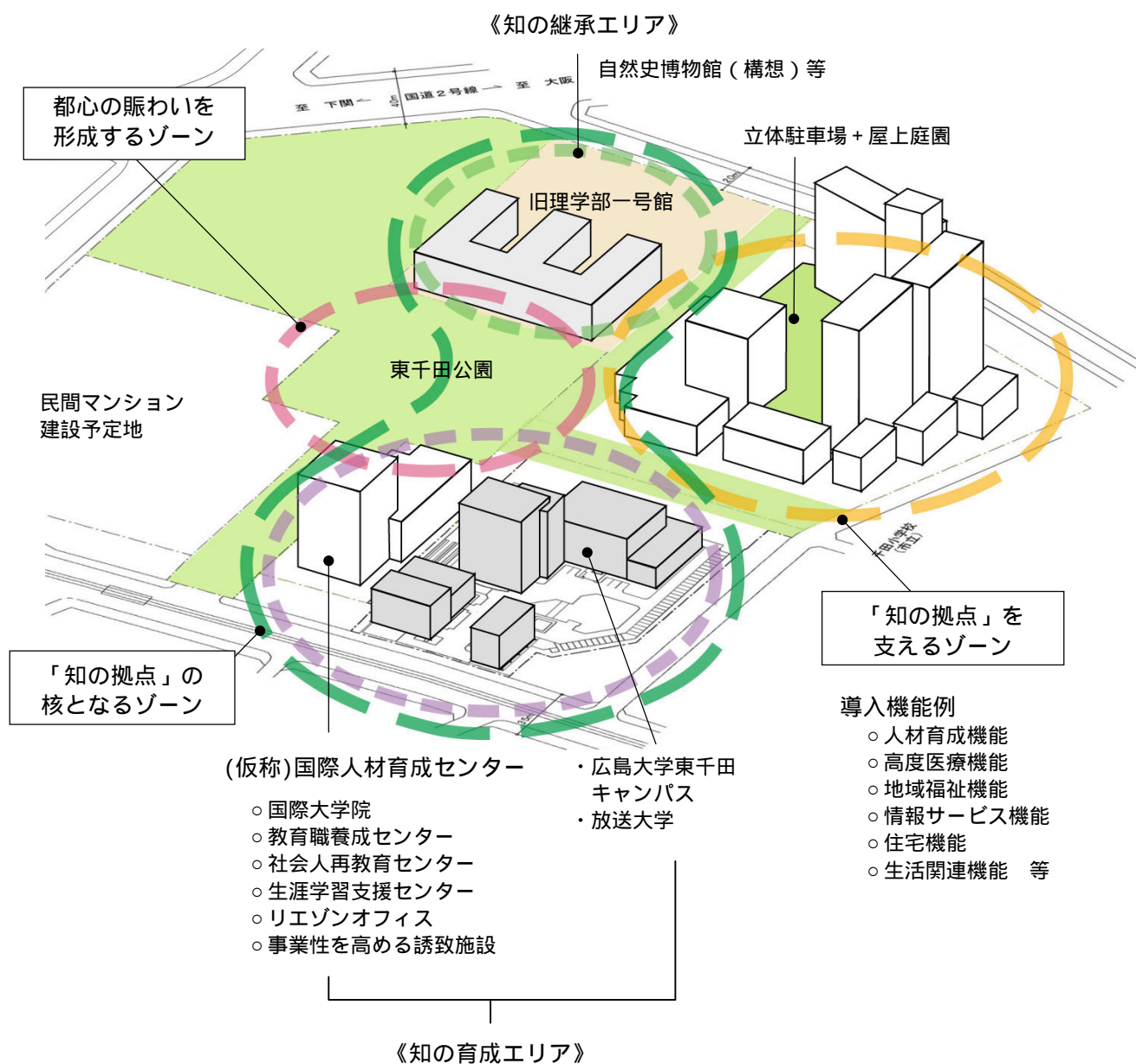
表 計画の概要

区分	整備の基本方針		導入機能	事業化の考え方
核となるゾーン 「知の拠点」	知の育成エリア	○広島大学東千田キャンパスとも連携をとりつつ、「知の拠点」にふさわしい幅広い人材育成の拠点施設を整備する。	○(仮称)国際人材育成センターの整備 ・地域の特色を生かした高度、専門的な研究機能 ・多様なニーズに対応した生涯学習支援機能	大学コンソーシアムが主体となってソフトの整備を推進（詳細は下表参照） 施設整備は民間事業者の活用を想定
	知の継承エリア	○旧理学部一号館（被爆建物）を活用しつつ新たな時代に向けて「知の継承」を図る。	○自然史博物館（構想）等	整備主体・手法等を検討する事業（別紙参照）
支えるゾーン 「知の拠点」を	○「知の拠点」の核となるゾーンとの一体的な計画のもとに「知の拠点」にふさわしい都市機能の導入（事業成立性を高める民間施設の導入を含む）・一体性を持った都市空間の形成を進める。		○人材育成機能 ○産学連携による産業育成機能 ○高度医療機能 ○地域福祉機能 ○情報サービス機能 ○賑わいを創出する住宅及び生活関連施設 など	「知の拠点」にふさわしい総合的な開発を行う民間事業者の参加を促し、行政・大学コンソーシアムが協力、支援しながら一体的な開発を行う。
を形成するゾーン 「都心の賑わい」	○周辺地区の整備と連携をとりつつ、都市的にぎわいの創出や良好な都市空間形成を進める。		○東千田公園と一体となった公共空間の整備・活用 ○「知の拠点」形成を促進するための基盤条件の整備	行政の支援を期待する事業

【別表】大学コンソーシアムが主体となって行う事業

考え方	導入機能	備考
世界に通用する国際人材育成拠点の形成 世界的に知名度の高い「広島」の条件を活かして、国際性を身につけた世界に通用する人材を育成することを目的とした人材育成拠点を形成する。	○国際大学院 ・平和科学専攻 ・国際ビジネス専攻 ○国際平和関係機関 ・国際平和研究センター ・国際機関等施設	既存研究所等の拡充等 UNITAR、JICA等のオフィス、ライシャワー大学ブランチなど
多様な人材の育成拠点の形成（コミュニティカレッジ） 広島地域固有の課題に対応した高度な研究、専門的な能力を持った人材育成から、地域の市民ニーズに対応した生涯学習活動まで、多様なニーズに対応できる、地域の知の拠点にふさわしい人材育成拠点を形成する。 併せて、大学等の教養教育等の場としても活用する。	○社会人再教育センター ・教育職養成センター ・語学研修センター（日本語・外国語） ・地域防災研究センター ○生涯学習支援センター ・生涯学習センター ・市民活動支援センター、NPO活動支援センター	教育職の再教育 語学専門学校の誘致も検討 地域再生人材創出拠点の形成に関する助成を想定（別紙申請書案参照）

図 東千田地区利用計画案



2・3 (仮称)国際人材育成センターの整備イメージ

上記の計画案のうち、大学コンソーシアムが中心となって企画・運営等に取り組む部分の整備イメージは以下のとおりです。

名 称	「(仮称)国際人材育成センター」		
整備場所	旧森戸道路隣接ゾーン 約0.6ヘクタール		
事業主体	官民共同事業体または民間事業者		
事業内容	人材育成機能等を含む複合施設		
導入機能	教育・研究機能 市民活動支援機能	・国際大学院（平和学専攻） 附属国際平和科学研究所 ・国際大学院（国際ビジネス専攻）	
		○社会人再教育センター ・教育職養成センター ・語学研修センター（語学専門学校の誘致等） ・地域防災研究センター ○生涯学習支援センター ・生涯学習センター ・市民活動支援センター、NPO活動支援センター等の拠点 ・アートセンター ○次世代人材育成センター ・次世代のリーダーシップ養成講座（子ども未来塾など）	教養教育機能を併せて担当 芸術の創作活動を通じた交流を促進する共同施設
	地域活性化支援機能	・集客施設（ホール、図書館等） ・関連サービス施設（飲食、物販、各種サービス施設等）	
	事業の成立性を高める誘致機能	・国際機関等の施設（オフィス、研修センターなど） ・立地条件を活かした教育関係施設（専門学校等） ・産学官等の連携により起業化を支援するリエゾンオフィス（インキュベーション施設等） ・一般企業等の賃貸オフィス	UNITAR、JICA等のオフィス、ライシャワー大学ブランチなどを想定 各大学の専門研究者等の研究シーズの活用等による地域活性化支援

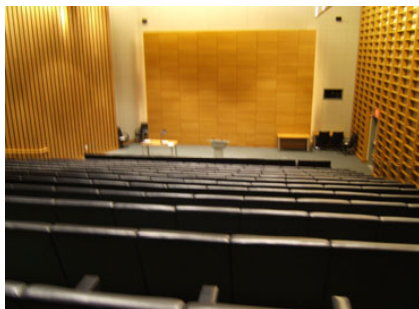
■ 国際人材育成拠点(仮称)の施設イメージ

【施設のイメージ(旧森戸道路沿い)】

敷地面積：約 6,000 m²
 延床面積：約 12,000 m²程度
 (容積率 200%程度)
 階 数：地上 10 階程度(高層部分)

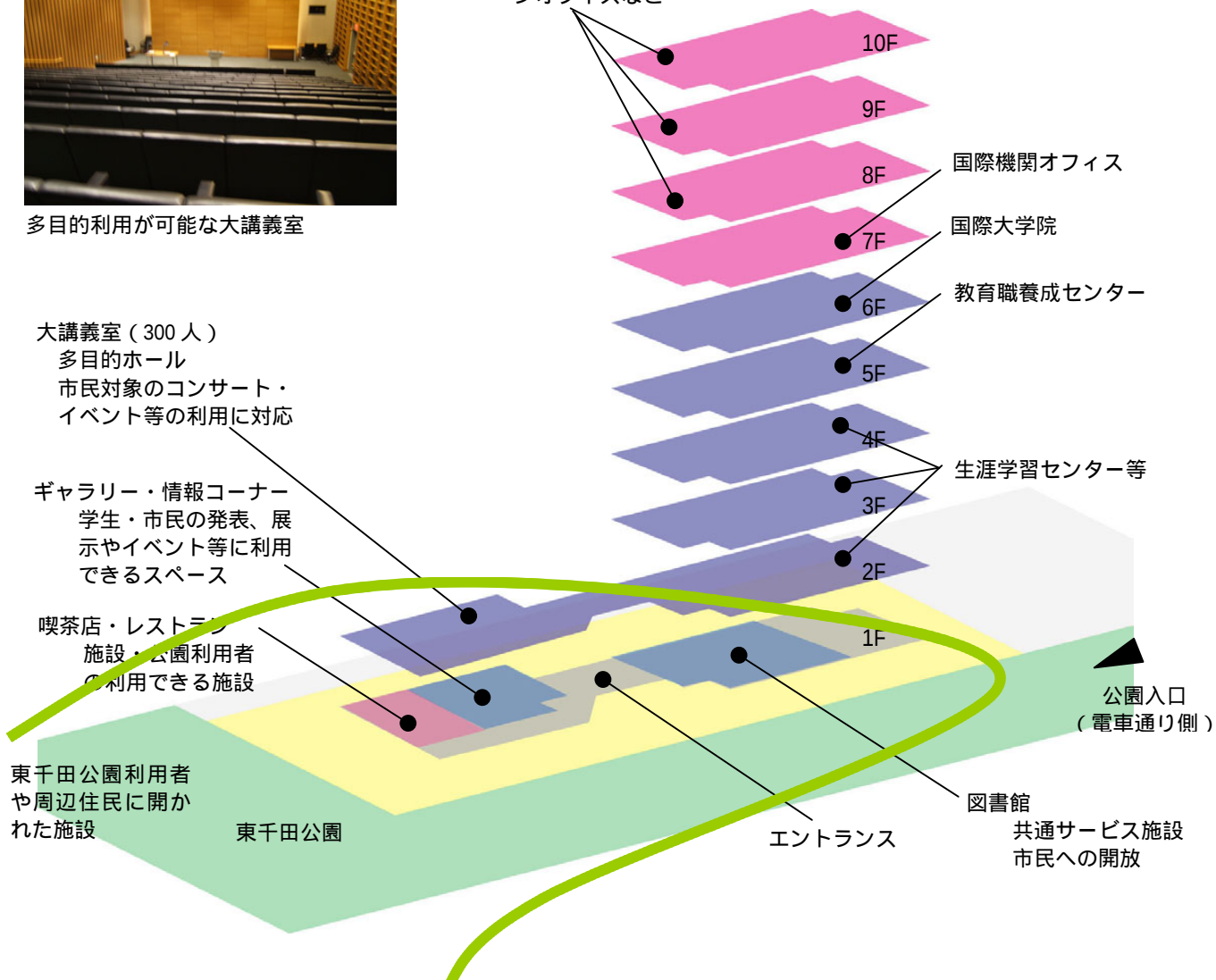


ビジネススクール仕様の教室



多目的利用可能な大講義室

一般オフィス
 教育関係機関
 インキュベシ
 ンオフィスなど



公園と一体的なオープンカフェ



多目的に使えるギャラリー

凡 例

- 教育関係施設
- 市民開放施設
- 貸オフィス・店舗関係
- 共通サービス部分

3．プロジェクトの具体化に向けて

本プロジェクトは、新しい「知の拠点」の再生による広島地域の活性化、東千田地区や広島市都心地区の活性化など、本来公的に推進すべき広島大学本部跡地の活用計画を、民間の資金やノウハウを活用して推進しようとするものです。従って、単なる民間事業としては実現が困難であり、官・民・学共同プロジェクトとして位置付け、様々な立場からの知恵を集めて実現を図っていく必要があると考えます。

とりわけ、「知の拠点」にふさわしいプロジェクトの推進のため、以下に示すような点において、広島市が先導的な役割を果たしていただくことを強く期待いたします。

六大学長懇談会としても、関係各機関等との連携をとりつつ、課題の解決に向けて尽力していきたいと考えています。

官・民・学共同プロジェクトとしての位置付けと事業推進主体としての役割の明確化

多くの企業や市民の知恵・資金を結集していくためには、多くの主体がビジョンを共有化していくことが不可欠であると考えます。そのため、官・民・学が共同で取り組む公的プロジェクトとしての位置付けを明確にさせていただくことを希望します。

広島大学本部跡地の一体的な活用に関する計画コントロール

広島大学本部跡地の一体的な活用が図られるよう、都市計画・建築規制などによる計画的なコントロールを行うとともに、プロジェクトの円滑な進行のための事業推進組織を設置していただくよう希望します。

公的プロジェクトという観点から事業性を高めるための支援

民間事業者による事業コンソーシアムの事業成立性を高めるため、土地取得方法等について最適な手法を検討していただくことを希望します。

知の拠点にふさわしい公的施設や公的空間の整備等の支援

民間主体の事業を促進し、「知の拠点」にふさわしい機能や空間を確保するために、必要とされる公共施設等の一体的な整備に取り組んでいただくよう希望します。

■「(仮称) 国際人材育成センター」において実施する教育プログラム(案)

機関	設置目的	構成・対象等	教育プログラムの概要	備考
国際大学院 設置主体:大学 コンソーシアム	○世界的な「広島」の知名度を活かして国際性を身につけた世界に通用する人材を育成する。 ○世界平和の原点「ヒロシマ」から世界平和に貢献する人材を育成する平和科学専攻、及びグローバルなビジネスの世界で活躍できる高度なスキルを持った人材を育成する国際ビジネス専攻の2専攻科を設置する。	【平和科学専攻】 対象: ○政治・経済等関連する教育を修めた大学卒業者で、国際公務員、国際平和貢献、環境問題、人口問題等の専門家を目指す学生 ○世界の大学・研究機関等の研究者 定員:30人	○国際法、国際政治、国際経済、開発科学、経済発展論、人口問題などを含む広い意味の平和科学の構築を目指す。 ○国際機関の実務経験者による指導を重視する	※既存研究所(広島大学平和科学研究センター、広島市立大学広島平和研究所等)との連携を想定 ※JICA、UNITAR など県内の国際機関との連携 ※ライシャワー大学等との連携によるプログラムも検討する ※国際高等研究所の研究分野は非実験系科学を予定している
		《附属国際高等研究所》 ○毎年ノーベル賞受賞者など世界トップレベルの研究者を招聘し、講義、講演、地元大学の教員との共同研究を行う。		
		【国際ビジネス専攻】 対象: ○経済・経営等関連する教育を修めた大学卒業者 ○アジア諸国に進出している企業及び日本に進出しているアジア諸国の企業の社員 ○一般社会人(ビジネス経験者) 定員:30人	○国際経済学、国際金融論、国際会計基準、国際企業の法務、等国際ビジネスを展開するために必要な科目の講義、演習。 ○実務経験者による実践的な講義とケーススタディを重視する。	※各大学の経済関係教官等が分担して担当 ※外部講師、実務経験者等を招聘することも想定 ※国内外のビジネススクール及び中小企業大学校との単位互換等の連携 ※国内外のe-ラーニング実施大学との連携
教育職養成センター 設置主体:大学 コンソーシアム	○広島地域の伝統である教員育成機能を活かして、次代の教育を担う専門的な知識・技能を持った教育職の再教育を行う	【教職取得コース】 (大学在学者対象) 定員:50人×2クラス (卒業生研修) 定員:30人 【教員再教育コース】 現在教職に従事している教員等 定員:30人	○教育職員免許状取得関係科目(大学在学者を対象) ○教育職員免許状取得研修(大学卒業者のための短期件研修) ○教員の再教育 (初任者研修、6年次研修、10年次研修、現職教員の再教育)	※各大学の教員養成科目担当教員、教育学担当教員等が分担して担当

機関	設置目的	構成・対象等	教育プログラムの概要	備考
語学研修センター 設置主体:大学 コンソーシアム、または民間 語学学校	○中高生、大学生、一般社会人、企業が採用した外国人、海外へ派遣される企業の社員や官公庁の職員など幅広い層の語学研修ニーズに応える総合的な語学研修を行う ※広島市内・周辺の大学の教養科目としての活用も想定する	【英語】 対象： ・海外派遣される企業・官公庁職員 ・大学生（各大学のカリキュラムに基づく語学学習） ・TOEIC、TOEFL 受験者 ・その他生涯学習としての受講者 定員：30 人× 5、100 人× 1 クラス	○ビジネスコース ・企業・官公庁職員向け ・英会話、ビジネス英語等 ○教養コース ・習熟度に応じてクラス編成 ・大学教養科目、生涯学習科目などに対応 ○上級コース ・TOEIC、TOEFL 受験準備	※各大学の語学教員 ※語学学校（民間）に事業を委託実施することも考えられる ※広島市立大学の開発した CALL システムの活用など
		【アジア圏】（中国・韓国語等） 対象： ・海外派遣される企業・官公庁職員 ・大学生（各大学のカリキュラムに基づく語学学習） ・その他生涯学習としての受講者 定員：30 人× 2、50 人× 1 クラス	○ビジネスコース ・企業・官公庁職員向け ・英会話、ビジネス英語等 ○教養コース ・習熟度に応じてクラス編成 ・大学教養科目、生涯学習科目などに対応	同上
		【日本語】 対象： ・日本の企業が採用した外国人 ・日本の大学への留学生等 定員：30 人× 2 クラス	○ビジネスコース ・企業採用者向け ○留学生コース ・大学教留学生向け	同上
地域防災研究センター 設置主体:大学 コンソーシアム	○自治体における自然科学、工学、法律、緊急医療、危機管理、社会心理など幅広い分野にまたがる問題である防災を対象とした専門家の養成 ○県内主要企業、地域における十分な知識を有する防災リーダーの育成	対象： ・県内の防災行政担当者 ・企業・地域の防災リーダー候補者 定員：80 人	○地域防災学Ⅰ （災害の科学と防災技術） ○地域防災学Ⅱ （公助の知識と実習） ○地域防災学Ⅲ （自助・共助の知識と実習）	※講師 専任スタッフ：4 名 併任スタッフ：約 20 名 （大学の防災関係研究者、自治体等の実務担当者） ※文部科学省「地域再生人材創出拠点」助成対象（予定）

機関	設置目的	構成・対象等	教育プログラムの概要	備考
次世代人材育成センター	○次世代のリーダーシップを持った人材を育成する	対象： ・高校生等		※「子ども未来塾」など
生涯学習センター 設置主体： 広島市、または文化事業を行う団体等	○市民等を対象とした生涯学習活動の拠点として様々な学習機会を提供する	対象： ・生涯学習活動に参加する一般市民 ※一部のコースについては大学生の教養教育として位置づける	○教養講座コース ・文学、文芸 ・歴史、思想 ・政治、経済 ・科学、技術 ・環境、自然 ・その他 ※語学は上記語学研修センターで担当 ○アートコース ・美術、工芸 ・音楽、演劇 ・映像、アニメ、情報デザイン ・その他 ○ITコース ・パソコン講習 ・プログラミング講習など	※大学コンソーシアムが講師を派遣するなど協力体制を構築する ※一部のプログラムについて教養科目として単位認定することも検討する
	○生涯学習活動、地域づくり活動等の担い手となるNPO、市民団体等の活動を支援する	対象： ・NPO、市民団体等 (生涯学習活動、地域づくり活動)	○市民活動支援コース ・NPO、ボランティア活動等に関する理論・技術 ・NPO等の設立、運営、財務等に関するノウハウ ・情報発信・情報交流等に関する理論・技術	※NPO等の活動拠点として、会議室、多目的活動スペース、情報コーナー（情報受発信）などの設置

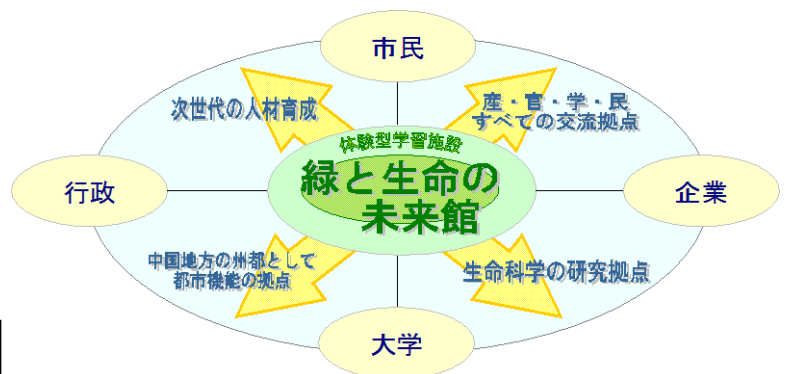
自然史博物館「緑と生命の未来館」基本計画書(案)

1. 自然史博物館「緑と生命の未来館」(仮称)の目的

- 体験を通じて未来を切り拓く次世代の人材育成拠点の形成
- 新しい生命観にもとづく生命科学の研究拠点の形成
- 産・官・学・民全てのレベルでの交流拠点の形成
- 中国地方の州都にふさわしい都市機能の整備

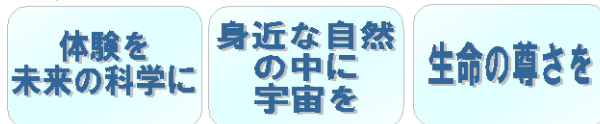


広島特性を活かした、体験型学習施設としての未来志向型自然史博物館



2. 自然史博物館「緑と生命の未来館」(仮称)の基本方針

キーワード



施設のコンセプト

**緑の地球で
生命の尊さを学び、
未来の科学を拓く**

3. 自然史博物館「緑と生命の未来館」(仮称)の機能

(1) 展示

再現性と体験性、体系性を持つものとする。展示は、出来る限り実物を展示しつつ、デジタル性による教育効果を持ったものを付設する。展示は、体系的な常設展示を中心に、年二回程の企画展を行う。

(2) 収集・整理・保存

瀬戸内地域を中心館として資料の収集・保存・整理を行い、情報システムを完備して公開するとともに研究・教育に成果を提供する。その媒体としてインターネットデータベース、展示図録、研究紀要、教科書等を用いる。

(3) 研究

展示に伴い自然史学・博物館学、生態学、地学、分子生物学等の研究を行うとともに、生命科学の研究施設を移設する。

(4) 普及・教育

県内外の小・中・高等学校生等を積極的に誘致し、自然科学の普及につとめる。また、ボランティアの活用とともに、各種団体と協力して友の会を設立して、実験・野外観察・講演・講座等を通じて自然科学振興を行う。

4. 自然史博物館「緑と生命の未来館」(仮称)の展示内容(案)

I. 生命の誕生、種の進化そして絶滅

展示内容	○恐竜(翼竜、魚竜、アンモナイト等) ○広島其三断面構造 ○地球誕生から今日までの地球環境の変化(体験映像) ○瀬戸内海の形成そして未来の映像 ○進化過程の説明
体験施設	○ヒトがいない地球、恐竜時代にタイム・スリップ ○恐竜が化石になるまで
研究者紹介	○ノーベル賞、国際賞の研究内容・紹介を兼ねる。
研究	○恐竜絶滅の謎 ○土星の衛星タイタンは、地球になれるか : 広島大学宇宙科学センター

II. 人類、自然との共生

展示内容	○哺乳類の繁栄、人類の進化 ○人間と環境 ○絶滅の理由変化、生物系統樹 ○広島県内の動植物、広島の生物変遷 ○広島の自然、地域の環境変化 ○里山モデル、里海モデル ○広島県における自然と人とのかかわり
体験施設	○人類の進化(サルからホモ・サピエンスまで)を触って実感しよう
研究者紹介	○ノーベル賞、国際賞の研究内容・紹介を兼ねる
研究	○人類が進化した理由 ○アイスマンと、その子孫 ○「里海」創生 ○里山 ○赤潮発生の謎(広島県立水産海洋技術センター)

III. 緑と生命の未来

展示内容	○瀬戸内海の未来、絶滅の危機にある動植物 ○生命の仕組み、ゲノム解読 ○人体・脳の解析画像、診断・診察装置 ○再生医学と人工臓器、病気の原因)
体験施設	○人体模型の組み立て、胃カメラで診断、人体・脳を覗く
実験・講義	○遺伝子組み換え実験、再生医学
研究者紹介	○ノーベル賞、国際賞の研究内容・紹介を兼ねる
研究	○再生医学の今日(ES細胞とはなにか) ○ゲノム解読

IV. 企画展示

①自然史系統

自然史系統のテーマとしては、
「絶滅した広島の昆虫」、「島嶼の動植物」
一般公募による科学的な説明をもった「未来生物コンテスト」など。

②広島の技術

広島県内の科学関係テーマ:「技術の伝承」
「鉄の道」、「木の道」、「石の道」
「たたら製鉄の科学」、「筆を科学する」

③最先端科学の今日

「ナノデバイスと細胞」「人間へのあこがれ
ロボット工学」「クリーンエネルギー」
「水素の威力 水素エンジン」
「リサイクルの今日」等

④その他

「コンピューターの歴史」
「タイムマシンの科学」
「ドラえもんの秘密」等